

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

とう 雲 稲雲

令和4年12月19日発行

第 15 号

発行者：校長 小貫 崇明



○長谷川ファミリーほのぼのコンサート

12月14日（水）と15日（木）、「長谷川ファミリーほのぼのコンサート」を開催いたしました。子どもたちのために生の音楽やバレエを楽しんでもらおうという鑑賞教室です。一昨年度にもコンサートをしていただいた団体で、長谷川朝子さん（ハープ・歌）と娘さんの中村千鶴さん（バイオリン）、息子さんの長谷川



弘樹さん（チェロ）の親子を中心に、ピアノや打楽器奏者が加わり、本物のバレエダンサーが踊るといった内容です。本校が義務教育学校で1年生から9年生までの子どもがいるため、またコロナ禍で三密を防ぐため、3回に分け2日間のコンサートにさせていただきました。子どもたちはバレエにも挑戦し、笑顔で音楽を楽しんでいました。



○希望進路の実現に向け面接練習が始まっています

12月に入り、9年生の高校入試に向けた面接練習が始まっています。まずは、学年の先生方による練習から始まり、他学年の進路指導経験の豊富な先生方から指導をいただき、最後は校長面接という流れです。服装、入室退室の仕方、面接での具体的な受け答え（姿勢、声の大きさ、視線、言葉遣いなど）、そしてもちろんその学校・学科を受験すると決めた理由をしっかりと伝えるように練習しています。試験本番時に焦らず落ち着いてできるよう、全員が本当に真剣に取り組んでいます。頑張れ、9年生！



○赤い羽根共同募金のご協力に感謝します

11月28日（月）、須賀川市社会福祉協議会の方々に稲田学園までわざわざ来ていただき、児童生徒から集めた赤い羽根共同募金を直接寄付することができました。

募金活動を行った保健委員会の代表児童生徒から、『『少しずつ 優しさもちよる 赤い羽根』をキャッチフレーズに、全校児童生徒に声をかけて集めました。須賀川市のために役立ててください。』とお願ひし、「大切に使用させていただきます。」と感謝の言葉をいただきました。

募金に協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。



○全国大会出場を市長に報告

11月28日(月)、稲田学園音楽部代表の3名が須賀川市の橋本市長に全国大会への出場を報告してきました。同じように報告に来ていた他の小学校や中学校の代表一人一人から話をする場面では、本校代表の部長(9年生)から、3つの大会で全国大会出場を果たしたこと、大会までの苦労や全員で頑張ってきた活動の成果について堂々と報告することができました。



○見学学習で警察署や消防署を見学しました(3年生)



11月30日(水)、3年生が須賀川警察署と須賀川消防署に行ってきました。社会科の学習の一環で、自分たちの住む地域の事故や事件、火事や急病など命に関わる問題から私たちを守ってくれている人たちから直接お話を聴くという活動です。

3年生の子どもたちは署員の方から色々な話を聞いたり、実物に触れたりして貴重な体験をすることができました。コロナの影響もあり3年ぶりに実現した見学学習となりましたが、受け入れてくださった警察署・消防署の皆さんが本当によく対応していただき充実した時間にすることができました。帰校後は、「パトカーすごい」や「消防士さんかっこいい」など、目をキラキラさせながら話していました。



○メディアセンターに豪華なクリスマスツリー

12月のメディアセンターには、写真のようにクリスマスツリーが飾られています。今年のツリーの特徴は、大人の手よりも大きなバラで彩られていてとても豪華なツリーになっていることです。コロナウイルス第8波の影響で、メディアセンターへの出入りは制限をかけていますが、近くを通るたびに華やかなクリスマスツリーがピカピカと輝いて、まるで絵本の中の一場面ようです。

今回が2学期最後の『稲雲』となります。冬期休業中は、各家庭で穏やかでしあわせなクリスマス、そして心安らぐお正月を迎えられますようにとお祈りしております。



★言葉と生きる(15) 「薬よりも養生(ようじょう)」

この言葉は、もちろん「病気になってから薬を飲むよりも、病気にかからぬよう平素から養生を心がけることのほうが大切」という意味もあるのですが、「病気になった時も薬だけで治るというものではなく、むしろ安静にして養生することが大切」という意味もあるのです。

もしコロナに感染してしまったり病気になってしまったら、家族みんなでお互いを気遣い、優しい言葉と栄養を考えた食事、ぐっすりと眠れる環境など、心にも身体にもあったかい家庭があれば、病気は早めに治るのだと思います。